

鮎つかまえたー

特集
最上町に住む
P.2~10



暑い夏のひとときを、自然の中で楽しむ「前森高原ササヅキフェスティバル」。写真は鮎のつかみ取り。清流を泳ぐ鮎を素手で捕まえる体験は、大人も子供も楽しいと間違いない！つかまえた鮎は塩焼きにして食べることができます。鮮度抜群の鮎の美味しさを実感できるイベントです。

今月号の表紙

広報 Mogami もがみ 令和7年8月号

発行／山形県最上町総務企画課まちづくり推進室 〒999-6101 山形県最上郡最上町大字向町 644 TEL 0233-43-2111 FAX 0233-43-2345
ホームページ <https://town.mogami.lg.jp>

印刷 合同会社 クロスプランニング

令和7年
9月6日(土)~7日(日)

最上祭り

豊穡祈願 最上の秋を彩る歌と踊りと光の祭典

御神輿担ぎ手大募集!
最上町の間伐材で作ったお守り木札プレゼント



最上祭り facebook

主催 最上祭り実行委員会 共催 もがみ南部商工会向町部会

最上中吹奏楽部パレード
×おびっこ引き山車
7日 10:30~12:00 (引き山車要申込)

6日 9:00~12:00 神輿渡御 (向町地区内)

13:30~14:00 最上中吹奏楽部
14:20~14:50 最上町コーラス隊 絆
15:00~15:20 新庄北高最上校「木と音の会」
15:30~16:00 津軽三味線「流れ星」
16:20~17:00 BIG SWING FACE in mogami
17:20~17:50 Chap-py. 弾語りコンサート
18:00~18:20 hip-hop dance First Base

第20回記念
大花火大会
6日 18:30~19:30 (19:00)

最上祭り大花火大会では、当日会場で紹介させていただくメッセージを募集しております。お名前、ご住所、電話番号、花火に込める想いをご記入の上、協賛金とともに申し込みにください。協賛金は一口五千円からとなっております。なお、お名前、ご住所、協賛金額は祭り本部掲示板に花の御札として掲示いたします。

7日 9:30~11:00 キッズパフォーマンス

①あたごこども園
②向町小 やるキッズダンス
③東法田田植舞
④向町小 ファンファーレバンド

13:30~14:00 パフォーマーたつみ ショー
14:20~14:50 ビンゴゲーム
15:10~15:50 黒澤餅搗唄保存会
16:10~16:40 しげちゃんバンド
17:00~17:30 The ZEN
17:50~18:10 最上町音頭保存会
18:30~19:30 ものまね本格歌謡
鮎川 ゆき ショー

お申し込み・お問い合わせ先 靴とカバンの店 オクヤマ ☎0233-43-2378 マルシメ大石 ☎0233-43-2039

町外転出者のアンケートの結果

6月に実施した「最上町Uターン移住に関するアンケート」にご協力いただきありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。アンケートの内容について一部抜粋しお知らせいたします。

アンケートにご協力ありがとうございました！



町へUターンすることを少しでも考えたことがある人の割合は ⇒ **60.9%**

半数以上が地方移住を考えたことがあると回答しています。

地方に移住する際の懸念材料は？

- ・仕事の選択肢の少なさ
- ・収入が減る可能性がある
- ・住居を確保できるのか
- ・交通の便が悪い
- ・医療や福祉サービスの不足
- ・冬期間の除雪に関する不安 等々

また、「移住後の生活に関して、どのようなサポートがあればより安心できると思いますか？」といった問いでは、



1位 住宅支援



2位 子育て支援



3位 就労支援

これらの上位を占める回答以外にも、



今住んでいる人たちのコミュニティの場を設けたり、町のイベントが楽しいのであれば、移住者の住み心地も良くなると思います。集落との繋がりが強くなるようなコミュニティの場を移住者の方々と形成していくことが、一番のサポートだと思います。



田舎では、農業従事者は低賃金というイメージがとても強いと思います。そのため若者向けの就労支援などのサポートがあれば移住しやすいと思います。

また、自然を活かしたアクティビティが最上町で出来たら楽しそうだと思います。

などの回答をいただきました。

特集

最上町に住む

お盆の時期、多くの帰省者で町は賑わった。

その光景を通して、多くの人々が町から離れて暮らしていることを改めて感じさせられる。

昨今、地方への移住が注目される中、移住を決断した人々は何を思い、

その地での生活を選んだのだろうか――。

都会へ移り住む人がある一方で、都会から地方へ移り住む人もいる。

移住者の視点から見た町の魅力や地方移住の利点について改めて探してみたい。

「最上町で生まれ育った若者は、進学や就職で一度県外へ出てしまうと、なかなか最上町に戻ってこない」、「町で生まれる子供が少ない」、「若者の担い手が不足している」――町民の方々の話の中で、そうした声がたびたび聞かれます。近年、全国の地方自治体では、人口減少や少子高齢化が大きな課題となつていま。当町においても、平成17年（約20年前）の町の人口は約1万人でした。しかし、現在では約7千人と、約3割も人口が減少しています。高齢化率も4割を超え、町内の年間出生数は20名を下回り、非常に厳しい状況が続いています。

若者の進学や就職等による「最上町離れ」が加速する一方で、一度町を離れたものの帰郷して生活を再開する人や、都市部から親戚や知り合いのいない地方へ移り住む人もいます。

そうした移住者は、一体どのような動機で最上町へ移り住んできたのでしょうか。本特集では、Uターン（帰郷者）やIターン（移住者）の方々にお話を伺い、町の魅力や、人口減少・少子高齢化といった課題を解決するヒントを皆様と共有していきます。



Uターンしてみたら、想像していたよりも 地方暮らしが楽しいものになった



2006年 最上町 → 東京都 → 2011年 最上町
プロショップクリーニングマキ 牧 広太さん 38歳 (向町3区)

牧さんは、家業であるクリーニング店を継ぐため、町へUターンしてきた移住者の一人です。高校卒業と同時にクリーニング師の資格取得のため都会で生活していましたが、牧さんがUターンすることになったきっかけや、地方暮らしをどう思っているのかを伺いました。

都会は学ぶ場所 資格を取るために上京

クリーニング師を目指し、最上町を離れ5年間東京で過ごしました。クリーニング師の資格取得は、養成所で1年間勉強が必要で、日中仕事をし、夕方から養成所での学習を行うような生活をしていました。そして、資格取得後も東京の会社で働いていました。

今考えてみると、当時は最上町に戻るなんて忘れて、ずっと都会暮らしでも良いと思うこともありましたが、特に、最新のクリーニング方法については都会の方が進んでいて、「もっとクリーニング師として腕を磨きたい、仕事の勉強をしたい」と思うようになっていました。中でも一番興味があったのは「シミ抜き」の技術で、今現在も仕事で活かせて

います。当時は自ら進んで学習費を払って学んでいました。都会に出て良かったことは、社会の見え方が変わったこと。いろんな経験や、物事を見る方法を知ったおかげで、今の仕事や生活に役立っています。また、自分自身が成長できて、華やかで楽しい場所です。しかし、生活していくには、都会はお金が掛かりますよね。

世代交代のため Uターンすること

上京する際に、地元に戻ることを前提にクリーニング師の資格を取りにいった訳ですが、都会にいて4年目になり「ずっとこつちにいってもいかな」と思い始めていた頃でした。両親と祖父とで経営していた実家のクリーニング店が、祖父の高齢化を機に規模縮小するという話が浮上っていました。その頃は、何度か最上町と東京を往復していて、家業の今後についてや私自身の今後の進むべき道について非常に迷いました。

実家の店を今後も続けていくために必要なこと、それは、自分が実家に帰りクリーニング師としての仕事をすることだと思ひ、最終的にUターンを決定しました。今では両親と三人で店をやっておりますが、それと同時に、商工会青年部やボクシングのコーチ、地元の祭りの実行委員など、自分が活動できる可能な範囲で、町の活性化に協力させていただいております。

都会から帰ってくる前は、「面白

いことや面白い場所なんてないんだろうな」と思って帰って来たのですが、意外にも現在では地方暮らしを楽しんでいます。

Uターンしてみてもわかる 田舎暮らしの良さ

高校生の頃は、まだまだ経験や知識が浅く、物事の見方も甘いところがあり、田舎暮らしの良さに気付けずにいきましたが、地方暮らしの最大の魅力は、都市部ではなかなか経験できない、地域コミュニティのつながりです。町の人たちとの絆を深めることは田舎暮らしの楽しみでもあります。また、田舎でしか見ることのでき

ない風景や景観は都会にはないところです。自然や四季を身近に感じながら生活ができることも、地方暮らしのメリットではないでしょうか。それから、実際にUターンしてみると意外にも田舎が住みやすいことに気がきます。例えば、地方暮らしは、車があればどこへでも気軽に移動できます。都会では車を持たない人も多くいるため、地方のように行きたい場所にいつでも気軽に移動することは難しいと感じます。まだまだ行ったことのない場所は沢山あるので、行ってみたいとも思います。また、私自身、まだまだ町のことを知らないとも感じます。集落の色々なイベントがあることも、大人になって10年程住んでも、まだ行ったことがない場所もあります。最上

町で暮らし続ける限り、そういった面白そうなイベントや行事は、自分の可能性を広げるためにも、行ってみたいと思っています。田舎に住んでいるなら、田舎を満喫し、楽しみながら生活したいですね。

移住を考えている方へ

今現在移住を考えている人に、地方暮らしも案外悪いものではないことを伝えたいです。もちろん、車社などでの車を運転しなければいけないことや、冬期間に雪が積もるので、除雪をしなければいけないことなど、多少の妥協は必要となりますが、Uターンして実家で暮らせれば、都会で生活するよりもお金はかかりません。

また、田舎特有の地域の人たちとの深い関わりは、他人をあまり気にしない都会とは違い、人間の温かさを感じて、楽しく感じる人もいます。ではないかと思ひます。私自身、最上祭りなどのイベントに関わって、イベントを地域の人たちや若い人たちと一緒にやっていることも、Uターンしてみても地方暮らしが楽しいと思える理由の一つになっています。

「最上町には何も無い」ということで都会や地方都市に転出する方もいると思いますが、今住んでいる高校生や中学生には、自分なりに町の良さや魅力を見つけて都会へ住むのも悪くないと思ひます。町から一旦



最上祭りの様子。牧さんは神輿の先導役として天狗に衣装し、地域のイベントの役員として参加しています。

外に出てみて、都会と田舎を比較し、自分のこれからの進むべき道を選択してほしいです。

私たちUターンした人たちが出来ることは、そうした人たちに、最上町にとどまってもらえたり、一旦都会へ出てUターンしようと思えるような、田舎の楽しさや魅力を伝えることだと思ひます。自ら進んでイベントを企画したいとかではないのですが、町の若い人たちと一緒にそういったことを考えて企画出来たら、もっと楽しいだろうと思ひます。

是非Uターンはお勧めだということではないですが、選択肢として実家に戻ったり、地方暮らしに過度の期待をしないで移住すると、案外想像していた田舎の生活よりも楽しいものになると私は思ひます。

就職してから初めて自分で作ったお米を、ここまで育ててくれた両親に感謝の気持ちを込めて贈りました。「美味しい」という連絡をもら

地方から農作物の美味しさを届けたい

また、はじめての雪道の運転も、自家用車が2輪駆動なので大変だったことを思い出します。今年の冬は仕事にも雪にも慣れてきたので、車でどこか遠くに出かけたいと思っています。



冬期間は初めての「とんくし」

元々都会にすんでいて、大自然の田舎を求めて地方に移住したので、栄えている場所に行くのは遊びに行く時くらいで問題なく生活できますし、私は今の環境に満足しています。

田舎で描く新しい暮らし

若者が挑む農業の世界



2024年 東京都 → → → 最上町

農業生産法人 もがみグリーンファーム 株式会社

のりひさ 浅水 規玖さん 19歳（向町3区）

い嬉しさもありましたが、もともと農業にのめり込みたいという気持ちが増えました。将来的には自分の田畑を所有し、多くの方々へ最上町の農作物の美味しさを届けたいと思っています。現在、米価格が上昇基調にあり、農業の重要性が増えています。田舎では耕作放棄地も増えていると聞きますので、そういった問題にも向き合いながら、「ピンチはチャンス」と思いながら、米作りに励んでいます。これから移住を考えている方や田舎で農業を考えている方、最上町の皆さんは親切にいろんなことを教えてください。私にとって最上町は、お勤めの地方の移住先です。すこいところなので是非最上町に来てください。

移住前は都会に住んでいた浅水規玖さん。田舎暮らしと農業への憧れがあり、最上町へ移住を決意しました。今では、米価高騰により、農業が非常に注目されています。浅水さんの移住についての動機や、農業についての思いを伺いました。

この地に住む人の温かさを感じて

私がどうして最上町へ移住したのか。それは「町に住む人の温かさ」に魅了されたからです。そもそも何故私が、田舎で農業をやっているのかと言うことですが、きっかけは祖父の農作業を手伝ったこと。自分で育てて収穫したものを食べたときの感動は忘れられません。また、自分が育てた作物を他人から「美味しい」と言ってもらえた時は農業のやりがいを感じました。

東京都の農業高校在学時には、卒業後に農業一筋と決めていたので、迷いはありませんでした。就職活動中、山形県最上町に所在を置く「もがみグリーンファーム」という企業に目が留まり、展開する耕作面積が広大であることを知りすぐさま職場見学をさせてもらいました。

その時に案内してくれた社員の方や、町の人たちと実際に関わってみたら、とても親切にしてくださいました。田舎に

地方で農業を営む若者が少しでも増えてほしい

全国各地で農業従事者の担い手不足が深刻化しています。近年の物価高騰による農業用機械や資材の高値から更新が出来ないため、農業から手を引く方々が増えているそうです。町でも担い手が不足し、耕作放棄地が増加傾向にあります。こうした問題の解消を目指す、農業生産法人もがみグリーンファーム株式会社で取締役を務める大場宏利氏に話を伺いました。

一人でも多くの若い農家が活躍してほしい

少子高齢化が進む中、田舎はどの職種も担い手不足。農業は特に高齢の方々が今までを支えてきてくださったこともあって、非常に厳しい状況となっています。

しかし、移住した若者、それから町外から農業の働き手として通う若者たちが町の農業を支えてくれることで、地元の若い人たちともに活気のある町の農業が復活するのではないかと考えています。こうした状況こそが、「私も農業

は都会にはない「人と人とのつながり」があり、人の温かさを感じられるところが魅力だと思います。

地方移住は住めば都

もともと、最上町とは縁もゆかりもなかった訳ですが、移住する前のイメージは、田園風景が広がる田舎という感じでした。また、都会に比べて便利さなどは劣るだろうと考えていましたが、実際に住んでみると意外と住みやすかったです。ここは仙台方面にも、山形方面にも2時間かからず車で移動することが可能で、車社会での交通の便はいいと感じます。



をやってみたい」といったことにつながり、担い手不足や耕作放棄地解消に繋がるのではないかと考えています。

今回の移住についての内容ですが、国や町の支援として、住む場所や移住支援金などスムーズに手続きができるような行政の窓口や支援があると、移住者はより地方に移住しやすくなると思います。そうした取り組みにより、空き家問題の解消や、少子高齢化に少しでも良い影響が出るのではないかと思います。

今の町の農業には若い人たちの力が絶対必要です。若手の農業従事者がどんどん増えて、町の農業を盛り上げてほしいです。今最上町に住んでいる人たちも含め、一人でも多くの若者が、この町を舞台に活躍してくれることを願っています。



農業生産法人もがみグリーンファーム株式会社 取締役 大場宏利氏

移住を希望・検討されている方が町に興味・関心を持てるように様々な媒体で情報を発信

ガイドブック「MOGAMI LIFE」 ポータルサイト「MOGAMI LIFE」



最上町の概要や暮らし・子育て・住まいなどを紹介した冊子を作成しました。町ホームページにも掲載しています。

ガイドブック
MOGAMI LIFE



自然豊かな環境での最上町ならではの暮らしや魅力を紹介しており、先輩移住者のお話を交えた実際の生活のリアルな声をお届けしています。

ポータルサイト
MOGAMI LIFE



豊かな自然や、
地域コミュニティに関りながら

移住を楽しむ

移住を考える際、都市の喧騒を離れ、自然豊かな地域で新たな生活をスタートすることは大きな魅力があります。澄んだ空気、四季折々に変化する美しい景色、地元の野菜や果物を味わう贅沢な暮らしは、多くの人々にとって憧れのライフスタイルと言えるでしょう。

しかし、移住生活の真髄は、単に自然を満喫することだけではありません。地域コミュニティとの温かいつながりが、その生活をさらに充実したものにしていきます。地方では、近所同士で助け合う文化や、伝統行事を通じて交流する機会が豊富にあります。祭りやイベントでは、地元集落の方々と心を通わせながら地域の歴史や文化を学ぶこともでき、これが移住者にとって新たな発見や喜びになると考えます。また、地元の方々とともに農業などを体験することで、自然の恵みへの感謝を実感できるのも地方ならではの魅力です。

移住には課題も伴い、住居探しや移住者の子育て支援、仕事の確保といった現実的な問題にも直面します。しかし、地域コミュニティとの絆を築くことで情報を取り入れたり、移住を支援してくれる団体や行政に相談してみることで乗り越えられるのではないのでしょうか。また、町への移住・Uターンを増やすためには、今住んでいる人たちが、この町での暮らしを楽しんでいることが大事です。

豊かな自然と地域コミュニティに支えられた移住生活は、ただの「住み替え」ではなく、新たな人生への挑戦であり、心豊かな生活のスタートです。地域の方々と共に歩むことで、自然と調和し真の幸福を見つけれられる移住生活を、ぜひとも楽しんで欲しいと心から思います。

移住相談会などのイベントや、移住体験会なども実施しています

移住相談会で町をPR

町では「もがさぼ」と共同で、首都圏で開催される移住相談イベントへ参加し、移住を希望されている方と直接お会いし、移住の相談や最上町のPRを行っています。



これまでの実績

やまがた移住・交流フェア



ふるさと山形移住・定住推進センターと山形県が主催となっている移住相談イベントです。県内市町村の他、山形県のような支援団体が出展しました。今年は 264 組 425 名の方が来場し、各市町村等の出展ブースで相談されました。

東北移住&つながり大相談会



認定 NPO 法人ふるさと回帰支援センターが主催となっている移住相談イベントです。東北6県・120 を超える市町村・団体が出展した大規模イベントとなりました。当日は 302 組 462 名の方が来場されています。

町の移住支援をご紹介します

最上町では町外から移住されてきた方が、最上町で求めている暮らしに近づけるように様々な支援を行なっています。

町外に住まわれているご家族やご親戚・ご友人が、最上町への移住をご検討されていたら、ぜひこれらの支援情報をお伝えください。



地方移住のアドバイザー 移住定住支援コーディネーター 「もがさぼ」

田舎暮らしがしたい!と思っても、新しい場所での暮らしには不安も多く、誰に相談したらいいのかもわからない……。そんな方をサポートするのが、移住定住コーディネーター「【通称】もがさぼ」です。町が民間業者へ委託し、移住者の移住前と移住後のサポートを行っています。移住経験者が担当しているため、移住者が気兼ねなく相談できる体制となっています。



もがさぼへ相談を希望される方は Instagram からお問い合わせください。(※移住定住に関する情報提供も行っていきます)

もがさぼ



第27回参議院議員通常選挙の結果

山形県選出
各候補者の
得票数

投票者数
4,567人

令和7年7月20日執行

当 ほか 道也	無所属	1,903
佐藤 ともあき	参政党	432
大内 りか	自由民主党	2,045
三井寺 修	日本共産党	93
大貫 学	NHK党	40

当日有権者数 6,366人
投票率 71.74%
男3,138人 女3,228人
男73.61% 女69.92%

投票区 番号	投票所 施設	当日 有権者数	当日 投票者数	期日前 投票者数	不在者 投票者数	投票者 総数	投票率
1.	コミュニティ センター	2,342	616	976	49	1,641	70.07%
2.	東法田分館	244	131	55	2	188	77.05%
3.	みつざわ未来 創造館らいず	251	102	90	1	193	76.89%
4.	生活改善 センター	788	222	294	2	518	65.74%
5.	赤倉分館	347	161	103	4	268	77.23%
6.	堺田分館	71	35	21	0	56	78.87%
7.	瀬見分館	210	85	85	1	171	81.43%
8.	大堀分館	539	164	229	1	394	73.10%
9.	大堀保育所	1,252	424	471	4	899	71.81%
10.	月楯分館	313	114	122	2	238	76.04%
	在外選挙	9	1	0	0	1	11.11%

比例代表
届出政党
得票数

投票者数
4,567人

日本共産党	140.125
日本維新の会	102
無所属連合	26
日本保守党	80
立憲民主党	559.202
参政党	387
国民民主党	381.922
チームみらい	36

日本誠真会	5
社会民主党	205
れいわ新選組	322
日本改革党	2
自由民主党	1,615.750
再生の道	15
公明党	474
NHK党	28

国と県が実施している移住支援金をご紹介します

◆移住支援金（国庫補助）

東京圏から山形県内の中小企業等に就職、テレワーク又は関係人口として移住した世帯に対して最大100万円+αを支給する制度です。こちらは移住元と移住先それぞれで対象要件がありますので、活用を希望される場合は総務企画課まちづくり推進室までご相談ください。



◆若者・子育て世帯移住支援（県補助）



県外から移住された世帯で以下の①～③に該当する方に支援金を支給します。

- ①若者単身 10万円 / 世帯
- ②若者単身2人以上 20万円 / 世帯
- ③子育て世帯 20万円 / 世帯

※②・③両方に該当すると40万円支給されます。

山形県の補助事業を活用する場合は、転入前に「やまがた暮らし移住希望登録」に登録が必要です！



◆移住世帯向け家賃補助金「住まいの支援」（県補助）

山形県に移住した方が賃貸住宅に入居した場合、その家賃の一部（上限1万円/月）を最大24ヶ月補助します。

◆移住世帯向け「食の支援」（県補助）



県外から移住された方に、お米・味噌・醤油をご提供します

※米の作況等によって、内容を変更する場合があります。

2人以上の世帯に山形県産のお米（60kg）・味噌（3kg）・醤油（3L）を約一年分提供。単身世帯はお米（40kg）・味噌（2kg）・醤油（2L）提供します。

不定期で移住体験イベントや、移住者交流会も開催しています！

移住体験イベント



「もがさぼ」は、最上町ならではの暮らしや仕事が体験できる移住体験イベントを不定期で実施しています。これまでに農業体験や冬の最上町を楽しむイベントなどを実施してきました。

今年度から新たに、「もがさぼ」が実施した移住体験イベントに参加された移住希望者に対し、町が交通費及び宿泊費を助成する制度（最上町移住定住受入推進事業）が新設されました。

〇お問合せ先 総務企画課まちづくり推進室 43-2261

移住者交流会



「もがさぼ」が主催となり、町民と移住者の交流を目的に企画した交流会です。

移住後の悩みや最上町での暮らしのコツについてなど、移住者が気軽に町民へ相談できる機会を作りました。

田代峠航空自衛隊慰霊碑奉仕活動が行われました

最上町自衛隊家族会は、田代峠にある航空自衛隊慰霊碑の清掃奉仕活動を行っています。この慰霊碑は、1968年1月17日に当地で殉職された航空自衛隊松島基地所属の紙西一等空尉を追悼するために建立されたものです。

今年の活動は8月8日に実施されました。隊友会鶴岡田川支部の方々も参加し、暑い中ではありましたが、碑の周辺環境整備、献花、黙祷を行い、殉職された隊員のご冥福を心よりお祈りしました。

ご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。



農業委員会からのお知らせ

6月25日の農業委員会総会において新たな農業委員会会長が選任されましたのでお知らせします。任期は令和8年7月19日までです。

農地に関する相談は農業委員会
(43-2017) までお寄せください。



会長 渡部 浩栄 (月楯)

赤倉さいだー フォトコンテスト

「赤倉さいだー」の発売を記念して、フォトコンテストを実施しています。皆様の力作、秀作をお待ちしています。ご応募はデータでお送りください。詳しくは下記を参照してください。



応募条件

①「赤倉さいだー」の商品が写っている写真であること。②「赤倉さいだー」の商品名が写っている写真であること。③赤倉温泉や最上町内で撮影された写真であること（撮影場所を明記してください）【①②③全ての要件を満たすこと】

応募期間 令和7年7月1日～11月30日(23:59)

入賞作品

優勝者には副賞として赤倉温泉で使える**宿泊補助券 20,000円分**を贈呈

優秀作品3名様に**産直品 1,000円相当**をプレゼント

その他、詳細等を要項にてご確認のうえ応募してください。

フォトコンテスト
応募要項



応募用 mail
バーコード



〇お問合せ先

「おくのほそ道」赤倉ゆけむり館
担当 平社 裕一
☎0233-45-3533
応募用メールアドレス
a.yukemurikan@gmail.com



まちトピ town topic

総合的な探求の時間 最上校生が町の観光を学びました

新庄北高等学校最上校の1年生12名が、町観光ボランティアガイドから、町の観光産業について学びました。7月10日に最上町の歴史や魅力について座学で講話が行われ、7月17日に現地研修として瀬見温泉の「喜至楼館内巡り」を体験しました。生徒は400年前に建てられた山形県で一番古い旅館の歴史の深さに感銘を受け、ボランティアガイドからの興味深いお話に熱心に耳を傾けていました。



永井医院杯 グラウンドゴルフ大会が開催されました

7月18日、万騎ノ原地区グラウンドゴルフ場にて永井医院杯グラウンドゴルフ大会が開催されました。大会には男女12名の方が参加し爽やかな夏空の下、熱戦を繰り広げていました。

この大会は、永井医院の院長を務める永井俊一氏が、町民の健康増進と地域の輪を広げる機会としてほしいとの思いから開催されているものです。参加した方々からは、「来年以降もグラウンドゴルフを楽しみながら、地域の絆を大切に、永井先生に感謝し大会を継続していきたい。」と話してくれました。

杉ノ入沢川上流付近で イワナの放流が行われました

7月23日、向町小1年の児童が、萱場地区の杉ノ入沢川上流付近でイワナの稚魚の放流を行いました。この取り組みは最上小国川漁業協同組合と萱場地区の方々が開業で、町の子どもたちに河川美化や、イワナの生態について学んでもらうために行われました。

子どもたちは貴重な体験に目を輝かせ「大きくなってね」と願いを込め、放流を行いました。



夏の安全町民運動出発式と 街頭啓発活動が行われました

7月24日、交通安全協会、交通安全母の会、防犯協会、青少年育成町民会議の皆さんが、役場駐車場を会場に、安全で安心な町づくりを目指す、夏の安全町民運動の出発式を行いました。続けて、町内スーパー・ドラッグストアを会場に街頭啓発活動を行い、交通安全や防犯の声かけとともに、啓発用品の配布を行いました。



こんなイベントがありました！

8/14

盆の市(向町)



8/16 「モ」のテーマで紡ぐ思い～最上町二十歳の集い～



毎年恒例の盆の市には、町内外から多くの方々が来場し大変賑わっていました。今年度は暑さ対策として、ステージやアトラクションに関しては中央公民館大ホールで行われました。

夏の風物詩と言えば盆踊り。踊ってくれた子どもたちの爽やかな浴衣姿が、盆の市を彩ってくれました。



8/15 毎年恒例の「前森高原サマーフェスティバル」大盛況！県内外から来場者！



8月15日、前森高原で行われたサマーフェスティバルは、お盆に帰省した方々が来場し大盛況でした。

特に、鮎のつかみ取りは大人気。自分で捕まえた魚を、自分で焼いて食べる体験ができるのが、このイベントの醍醐味です。



8月16日(土)、中央公民館大ホールにて、最上町「二十歳の集い」が執り行われました。式典には対象者83名のうち63名が参加し、久しぶりに再会した友人や中学校の恩師たちと、思い出話を花を咲かせました。

今年度のテーマは「モ」～最上の二十歳について。この「モ」には三つの意味が込められています。一つ目は、最上の「モ」。二つ目は、もともともつとという欲張りな気持ちの「モ」。三つ目は、もがきながらも進むという等身大の姿の「モ」。これらの思いがテーマに込められました。

式典では実行委員長の五十嵐悠人さんが「今までの経験に感謝し、もつと良い未来へと踏み出す第一歩になることを願っています」と挨拶を述べました。

また、高橋町長からは「後悔することがないよう、失敗を恐れず、大いにチャレンジしていただきたい」とお祝いの言葉が贈られました。

第2部の記念講話では、中学3年当時の恩師から教え子に向けたメッセージが贈られ、当時は振り返り大いに盛り上がりました。

この度、二十歳を迎えられた皆様、誠におめでとうございませう。愛郷心あふれる皆様の未来が希望に満ちたものとなりますよう、今後のご活躍を心からお祈り申し上げます。

7月 最上町の人口 戸籍の窓口

※令和7年7月31日までの届出分まで

全人口 7,231人 (うち、外国人121人)
 男 3,539人 (うち、外国人 13人)
 女 3,692人 (うち、外国人108人)

世帯総数 2,721世帯

生まれた人 2人
 亡くなった人 14人
 転入 11人 (うち、外国人 3人)
 転出 12人 (うち、外国人 1人)
 前月比 13人減

窓リノベ 補助金還元
 ウェルスハシモト取扱総額 **1,000万円突破!!**
 ※2023年からの累計です。 ※2025年度は「窓リノベ補助金」の最終年度です。

最終年度 2025年版
 補助金額 **最大 200万円**
 ※補助金は先着順です。 いますぐお問い合わせください!

窓リフォームで “今だけ” もらえる
 冬は窓からの隙間風が寒くて仕方がない
 電気代が高くなる一方で
 窓の曇りが不安
 誰にリフォームも依頼したらいいのかわからない

ウェルスハシモト 0120-38-4610
 〒999-6101 山形県最上郡最上町向町 279-13 受付 8:00~18:00 / 定休日: 日曜日

墓じまい 建て直し リフォーム
お任せください!
 墓石は墓石の専門店へ
まつしまメモリーランド
 天童店 天童市北目3-4-18 ☎023-654-1411

広報もがみでは有料広告と有料購読者を募集しています

半枠 横 86mm 縦 45mm 5,000円
 1枠 横 86mm 縦 90mm 10,000円
 有料購読: 1年間(4月~3月) 1,500円

お問合せ先: 総務企画課 まちづくり推進室
 0233-43-2261

最上町産業振興センター公式 LINE アカウント

町内の事業主の皆さんに向け、国、県、町等の補助金やセミナーなど様々な情報をお届けします!是非ご利用ください!

建設業退職金共済制度
 (独) 勤労者退職金共済機構 建設業退職金共済事業本部
TEL 03-6731-2866

6つの 特長

- 国の制度で安全確実
- 掛金が一部免除
- 転職時は企業間を連算して計算
- 経営事項審査で加算
- 掛金は損金扱い
- 電子申請方式で手続き簡単

検索 建退共

地域おこし協力隊通信



こんにちは!
 今月号は菅大智がお伝えします!

「健康」をテーマにした本を作りました!
 猛暑日が続いています。皆様いかがお過ごしでしょうか?
 私が部活動のサポートをしているサッカー部やバスケットボール部の生徒達のうち数名がこの度陸上大会へ選抜され出場しました。地区大会で素晴らしい成績を残し、なんと6名もの選手が県大会への切符を獲得。私も応援に行きましたが、生徒達のあきらめない姿に胸が熱くなりました。
 そんな生徒達へ競技力を上げるトレーニングを指導する中で、「健康を意識している町民の皆さんにも、生徒達に教えている内容を伝えられるのではないかと」思いがわき、今回冊子を作る事になりました。その名も、「目指せ!健康寿命100歳のヒント」思い通りに動く体へ!」です。協力して下さったスタッフ

目指せ!健康寿命100歳のヒント

思い通りに動く体へ!

目指せ!健康寿命100歳のヒント

最上町魅力発信 Instagram

フの皆さんとの話し合いを重ね、町民の皆さんに合った内容を厳選しました。内容としては健康のための睡眠、食事内容の重要性、正しい呼吸方法で肩コリや腰痛が改善する内容、そして体の調子が整うレベル別の筋力トレーニングなどをご家族やご友人と楽しく行えるようまとめています。この本が皆さんの健康づくりの「ヒント」としてお役に立てれば幸いです。無料で提供していますので、ご興味ございましたら、左記二次ページコードへアクセスしご覧ください。

最後に企画の提案や協力してくださった関係者の皆様有難うございました。この場を借りて御礼申し上げます。

外出するのも億劫となる暑さが連日続く中、7月23日に旧赤倉小学校体育館にて集落サロン会モルック大会が開催されました。本大会は「集落の皆様方の交流・親睦を深め、生きがいのある富沢地区を築いていこう。」をテーマに開催し、今年で3回目の開催となります。

モルックとは、木製の棒(モルック)を投げて、スキットルという数字が書かれた木製のピンに当て、倒れたスキットルの点数を加算していき、先に50点びつたりになったら勝ちというフィンランド発祥のゲームです。50名の参加者は「あと3点で50点となるのに、スキットルが遠いな」と話しながら、勝利を目指して楽しんでいました。帰り際には参加者の方から「とても楽しかった、それに新しい友達がたくさん増えたよ」と話してくださいました。

暑さを吹き飛ばすように皆さんが



楽しまれている姿を見て、集落間の交流を深める活動の支援を、さらに行っていく必要があると再確認できた1日となりました。



スポーツでつながる集落間の交流



富沢地区集落支援員
 井上 あゆみ

9月は「世界アルツハイマー月間（認知症月間）」です

9月は認知症への理解を深め、認知症の方やその家族を支えることを目的とした「世界アルツハイマー月間」です。認知症は誰にでも起こり得る身近な脳の病気です。この機会に、認知症について考え、支援の輪を広げていきましょう。

～新しい認知症観～

認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも一人ひとりが個人としてできることややりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間とつながりながら、希望をもち自分らしく暮らし続けることができるとする考え方です。一人ひとりが自分ごととして理解することで共生社会を作りあげていくことを目指しています。

町では、認知症に関する以下の取り組みを行っています。ぜひご活用ください。

①もの忘れ相談 日時：毎月第2火曜日 午前9時～11時、場所：健康センター

・上記の他にも、相談は随時受付けています。

②認知症初期集中支援チーム活動

・早期発見・早期対応を目指し、認知症の兆しがある方に対して医療・介護の専門職が連携し一定期間（おおむね6ヶ月以内）、集中的に支援をします。

③認知症支援ガイドの周知

・認知症の進行や状態に合わせて活用できる医療・介護・福祉のサービスの情報などをまとめたものを作成し周知しています。

④認知症カフェの開催

・認知症の人や家族、地域の方が気軽に参加し、認知症について理解を深め集える場です。町ではNPO法人やまなみへ委託し実施しています。一緒にお茶を飲みながら、情報交換やリラックスした時間を過ごしてみませんか？

⑤チームオレンジの取り組み

・「認知症の人および家族の希望や悩み、身近な困りごとなど」と「認知症サポーターを中心とした支援者」をつなぐ仕組みのことで、現在町内において「ゆりの会 ねこの手ボランティア」がチームオレンジとして活動しています。

○介護や認知症に関する相談、事業の詳細に関するお問合せ先 地域包括支援センター（内線602）

100歳おめでとうございます！

100歳を迎え、町より長寿のお祝い金が贈呈されました。この度は誠におめでとうございます！



伊藤 トラエ さん

伊藤さんは若いころから農作業で苦労したそうですが、泣き言は言わずに常に人に感謝をすることを心がけてきたそうです。

伊藤さんの元気の秘訣は、周囲の方々の言うことをよく聞くこと、好き嫌いをせず、辛い物・酸っぱいものは食べ過ぎないようにほどほどにすることと話してくれました。

また、ご家族と楽しく暮らしてきたおかげで長生きできたと感謝をされていました。

これからもお元気で過ごしてください。

介護保険についてのお知らせ

介護保険負担限度額認定証をお持ちの皆様へ

令和6年度に交付した認定証の有効期限は7月31日までとなっております。今年度も引き続き介護施設などをご利用される方で、更新の申請がお済みでない場合は、健康福祉課窓口にてお手続きください。なお、昨年度中に認定された方には、6月下旬に更新案内と申請書を郵送しております。※負担限度額認定証は、申請いただいた月の初日からの適用となります。（例：8月12日に申請→有効期限は8月1日から翌年の7月31日まで）

必要書類

申請書、印鑑、介護保険被保険者証、マイナンバーのわかるもの、預貯金などを確認できるもの（通帳など）

新しい介護保険負担割合証の交付

要介護（要支援）認定を受けている方に交付している、令和6年度分の介護保険負担割合証については、有効期間が7月31日までとなっております。令和7年度分（有効期間：令和7年8月1日～令和8年7月31日まで）の介護保険負担割合証は、7月下旬に郵送にて交付しております。

○お問い合わせ先 医療介護保険室（内線609）

令和7年度の健康診断 まだ間に合います！

令和7年度の町の健康診断をお申し込みの方には、4月末に問診票を送付しております（ただし、永井医院は健診時に問診票を配布予定）。お手元に問診票が届いていない方で健康診断を希望される方は、ご自身が加入されている医療保険の種類に応じて下記のとおりお申し込みください。

◎最上町国民健康保険加入

山形県後期高齢者医療加入の方

①健診場所を選ぶ	
永井医院 ※基本（特定）健診のみ受診できます。	最上検診センター（新庄市） ※基本（特定）健診と同日にがん検診も受診できます。

②電話で予約する	
永井医院 ☎46-1511 ※ご予約受付時間 月～土 8時～11時 月・木 15時～17時 金 16時～18時	最上検診センター（新庄市） ☎23-3411 ※検診業務により10時～16時がつながりやすいです。

◎社会保険加入の方

※社会保険加入の方は原則職場で健診を受診してください。

①日程を選ぶ（最上検診センター）	
9月12日（金）	11月17日（月）
9月30日（火）	12月6日（土）
10月15日（水）	12月11日（木）
11月13日（木）	1月14日（水）

②電話で予約する	
最上検診センター（新庄市） ☎23-3411 ※特定健診と同日にがん検診も受診できます。	

○お問い合わせ先 健康づくり推進室（内線606）

屋外広告物の適正な管理と点検義務について

毎年9月1日から10日までの期間を「屋外広告物適正化旬間」として、屋外広告物適正化、安全管理の強化等に取り組んでいます。特に、老朽化した屋外広告物の落下・倒壊事故が全国で相次いで発生しています。山形県では、設置許可の有無を問わず、屋外広告物の安全点検の実施が義務付けられていますので、ご協力をお願いいたします。

また、全ての屋外広告物（のぼり旗、はり紙等を含む）は、県の条例により、設置にあたって許可が必要な場合や設置が禁止されている場所があります。また、高さ、大きさ等の規制もありますので、事前にご相談くださるようお願いいたします。



○お問合せ先
山形県最上総合支庁
建設部建設総務課行政係
TEL0233-29-1376

「令和6年豪雨災害 最上地域復旧工事デジタルマップ」

令和6年7月の記録的豪雨により、最上地域においても多くの県管理公共土木施設が被災いたしました。現在、早期の復旧、復興に向け、道路、河川あわせて394箇所の復旧工事の推進に全力で取り組んでいるところです。

最上地域では、被災箇所が多く、また、広範囲に点在していることから、被災箇所毎の復旧工事の進捗状況を、Web地図上で確認できるデジタルマップを作成し、公開しておりますのでお知らせいたします。

POINT

1. 『道路復旧工事マップ』、『河川復旧工事マップ』の2種類を作成
2. 復旧工事状況（復旧完了・実施中・未実施）をアイコンの色で区別
3. アイコンをクリックすると施工期間などの情報が表示

イメージ画像



下記の青色、黄色、赤色の部分をクリックする



道路復旧工事マップ
二次元バーコード



河川復旧工事マップ
二次元バーコード



道路復旧工事マップ URL

https://www.google.com/maps/d/edit?mid=1_oz7qb-DCOTXJ2R-emjF-xTy9ChzY3c&usp=drive_link

河川復旧工事マップ URL

<https://www.google.com/maps/d/u/0/edit?mid=1mQ7IE2VYTyorlFEeZ7V7sycc4jWe9qQ&usp=sharing>

<デジタルマップに関してのお問合せ先>
<災害などに関するお問合せ先>

最上総合支庁 建設部 建設総務課
道路計画課
河川砂防課最上地域豪雨災害復旧対策室
Tel : 29-1373
Tel : 29-1394
Tel : 29-1443

音楽家
池田敏美先生の
追悼コンサート
音の風

2025.10/5日

開場 12:30 ~ 開演 13:30 ~ 終演予定 15:45

旧最上町立瀬見小学校

前売券 2,000円 当日券 2,500円
※高校生以下無料

第1部 思い出集い「池田敏美先生の音楽と人生」
第2部 追悼コンサート「音の風とともに」

受け継ぐ音色、つなぐ心。

本イベントは、昨年8月に逝去されました音楽家・池田敏美先生の地域音楽文化振興にむけたご功績に感謝しこれを称えとともに、故人の優しいお人柄を偲ぶことを目的としています。つきましては、多数ご来場くださいますようお願い申し上げます。

- 主催 池田敏美先生を偲ぶ会実行委員会
- 後援 最上町、最上町教育委員会、最上町社会福祉協議会、最上町芸術文化団体協議会、最上町観光協会、最上町青少年育成町民会議、NPO法人やまなみ、最上ロータリークラブ
- 入場券前売予約・販売取扱所 最上町立中央公民館 最上町社会福祉協議会ほか

お問い合わせ先
最上町教育委員会教育文化課
TEL43-2053



8月号 くらしの情報

山形県登録ボランティア仲人「やまがた縁結びたい」募集

「やまがた縁結びたい」とは、結婚を希望する独身男女の出会いの機会を拡大するため、県に登録してボランティアで仲人活動を行なっており、現在県内の約55の個人・団体が登録しています。

▼活動内容 ◇相談者からの相談対応◇相談者にふさわしいお相手探し(定期的な情報交換会への参加)◇お見合いの設定

▼活動経費 活動に対する報酬はありませんが、活動経費の一部(お見合い1件につき500円)を支援金として交付します。

▼登録要件 所定の研修を受講すること。

▼その他 詳細については、「やまがた縁結びたい」のホームページをご覧ください。



HPへアクセスできます
読み込むと
詳細はHPへ

「やまがた縁結びたい」による結婚相談会

○お問い合わせ・申込先
やまがたハッピーサポートセンター事務所
0233-61518755

▼開催日時 ◇令和7年9月13日(土)◇午後1時～4時45分(1組45分程度)

▼場所 やまがたハッピーサポートセンター最上支所(新庄市)

▼対象 結婚を希望する方またはそのご家族(予約制)

▼内容 婚活の仕方、お見合い相手の紹介などについての個別相談

▼費用 無料

▼申込 令和7年9月10日(水)まで、やまがたハッピーサポートセンター
0233-68711972



「野生きのこ」の放射性物質に注意

これから「野生きのこ」のシーズンを迎えるにあたり、次の事項に留意してください。

新庄警察署よりお知らせ

▼みんなでとめよう「国際電話詐欺」!
十から始まる国際電話番号を使った詐欺電話が多発しています。詐欺防止には、国際電話の着信拒否が効果的です。固定電話を対象に、警察官が国際電話利用休止申込みのお手伝いをしています。

地域のサークルやサロン等の場で行うことも可能ですので、ご希望の方は近くの交番・駐在所までご相談ください。

人権擁護委員による相談会

▼日時 毎週月曜日、水曜日(祝日以外) 午前9時～午後4時

▼場所 山形地方法務局新庄支局

▼内容 人権擁護委員が日頃の悩みについて相談承ります。

▼費用 無料

※予約も必要ありません。

○お問い合わせ先
山形地方法務局新庄支局
02333-2217528



HPへアクセスできます
読み込むと
詳細はHPへ

①「野生きのこ」は、生育環境の違いにより放射性物質の濃度にはばらつきがあるため、出荷前の検査を徹底し、安全性を確認してから出荷してください。なお、出荷には、「フリーマーケットサイト等による通信販売」も含まれますので、注意してください。

②特に「チチタケ」、「サクランメジ」、「コウタケ」は、過去に基準値を超える放射性物質が検出されていますので、自主検査を徹底し、安全性を確認してください。

○お問い合わせ先
農林振興課農林振興室
02333-4312150

令和8年度有害鳥獣被害対策推進事業費補助金の募集

令和8年度有害鳥獣被害対策推進事業費補助金の募集

▼事業内容
電気柵・ワイヤーメッシュ柵一式の購入経費の補助

▼対象 農作物を栽培している農業者個人や団体等(※家庭菜園も対象になります。)

▼補助要件 電気柵の安全講習を受講すること

▼補助率等
購入経費の1/2以内(補助上限20万円)

令和8年度に事業の利用を希望される方は、令和7年9月30日までに電気柵・ワイヤーメッシュ柵の見積書を持参して農林振興課までご相談ください。

○お問い合わせ先
農林振興課農林振興室
02333-4312150

令和8年度に事業の利用を希望される方は、令和7年9月30日までに電気柵・ワイヤーメッシュ柵の見積書を持参して農林振興課までご相談ください。

電磁石銃の無許可所持禁止について

銃砲刀剣類所持等取締法の改正に伴い、電磁石銃を所持している方は、令和7年8月31日までに手放すか、所持許可を申請しなければ、9月1日以降は不法所持となります。

日曜労働悩みごと相談会の開催

山形県労働委員会では、解雇や賃金未払いなど労使間のトラブルでお悩みの方を対象に、山形市・米沢市・酒田市・新庄市の4か所で、相談会を開催します。労働問題に詳しい労働委員会委員がアドバイスしますので、ぜひ御相談ください。(相談無料・秘密厳守)

○お問い合わせ先
新庄警察署生活安全課
02333-2210110

開催日時

◇1 令和7年10月5日(日) ◇2 令和7年10月19日(日)

※①②とも午前10時～午後3時(最終受付：午後2時30分)

▼場所 ◇1 置賜総合文化センター(米沢市金池3-1-14)・酒田勤労者福祉センター(酒田市緑町19-10) ◇2 あこや会館(山形市松波2-8-1)・最上広域交流センター「ゆめりあ」(新庄市多門町1-2)

▼対象 県内事業所の労働者、事業主の方など

※両日とも、オンライン相談も受け付けます。

※原則、毎月第2木曜日にも相談会を開催

自衛官採用試験

自衛官候補生

▼対象年齢 18歳以上33歳未満

▼受付期間 年間を通じて行っています。

▼試験期日
◇1次試験 令和7年9月12日(金)～9月18日(木)の本人が指定する1日(Web試験)
◇2次試験 令和7年9月21日(日)～9月23日(火)(面接、身体検査※指定する1日)

▼一般曹候補生
18歳以上33歳未満

▼受付期間 令和7年7月1日(火)～9月2日(火)

▼試験期日 令和7年9月13日(土)～9月21日(日)の本人が指定する1日(Web試験)

○お問い合わせ先
自衛隊山形地方協力本部
新庄地域事務所
02333-2215057

ひとり親家庭交流会

▼日時 ◇令和7年10月5日(日) 午前10時～午後3時(受付開始9時)

▼場所 リナワールド

▼対象 ひとり親60世帯(中学校3年までのお子さんのいる世帯)

▼内容 ◇午前 開会式、研修・交流会(ひとり親家庭支援)

○お問い合わせ先
山形県労働委員会事務局
0233-666-7784

応急手当普及員養成講習会

最上管内では、通報から救急車が到着するまで平均約10分を要しており、心肺停止の場合、特に救急車到着までの間に応急手当が施されなければ、蘇生の可能性がほとんどなくなるため、応急手当の不急は救急分野において最重要課題とされています。

その応急手当の方法を、より多くの住民の皆様と共有していくため、事業所等の従業員や防災組織等の構成員等に対して、普通救命講習(AEDを使用した心肺蘇生法の3時間講習)の指導がおこなえる技術を身に付けた方を養成する「応急手当普及員養成講習会」を左記のとおり開催します。

○お問い合わせ先
最上広域市町村圏事務組合
消防署救急係
02333-2217521

開催日時

◇1 令和7年11月22日(土) ◇2 11月23日(日) ◇3 11月24日(月) ◇4 午前9時～午後6時(※合計三日間の講習)

▼場所 最上広域市町村圏事務組合消防署2階会議室

▼対象 応急手当を普及していただける方ならどなたでも(特に各種事業所、学校、旅館、介護・老人保健施設に所属している方)

▼内容 AED(自動体外式除細動器)の使用を含めた応急手当に関する知識と技能(心肺蘇生法・止血法等)の講習とそれらの指導方法について

▼定員 20名(受講者が5名に満たない場合は中止)

▼費用 受講料無料、昼食は各自準備

中小企業退職金共済制度のご案内

中小企業退職金共済(中退共)制度は、中小企業の事業主が、従業員の退職金を計画的に準備できる国の退職金制度です。国からの有利な掛金助成や、税法上の優遇も受けられ手数料もかかりません。家族従業員やパートタイマーも加入できます。

※一部対象外あり。詳しくはホームページをご覧ください。

○お問い合わせ先
中退共本部
03-6907-1234

「生活応援ローン」

最上町と東北労働金庫が提携し低利で融資する制度です。

▼使いみち
生活資金全般・自動車購入・教育資金・医療介護費・冠婚葬祭費・移住定住に係る家電購入費・空き家の改築、修繕、解体費等、広くご利用いただけます。但し、事業資金、投機目的資金

○お問い合わせ先
一般財団法人山形県母子募福社連合会事務局
0233-633-0961

「生活応援ローン」

最上町と東北労働金庫が提携し低利で融資する制度です。

▼使いみち
生活資金全般・自動車購入・教育資金・医療介護費・冠婚葬祭費・移住定住に係る家電購入費・空き家の改築、修繕、解体費等、広くご利用いただけます。但し、事業資金、投機目的資金

○お問い合わせ先
一般財団法人山形県母子募福社連合会事務局
0233-633-0961



HPへアクセスできます
読み込むと
詳細はHPへ

○お問い合わせ先
中退共本部
03-6907-1234

いつも広報もがみを
読んでいただき
ありがとうございます